

地域活動 レポート

令和8年4月

No.61

東淀川区役所
地域課（地域）

06-4809-9509

tm0011@city.osaka.lg.jp



◆地域課からのお知らせ

■東淀川区地域活動アンケート結果―住民の声から見えた、これからの地域づくり―

「必要だが、無理はしたくない」という本音。今回のアンケートから見えてきたのは、「地域活動は必要だと思うが、過度な負担は避けたい」という住民の率直な感覚です。

令和7年6～7月に実施したインターネットアンケートには、中学生以上740名の方

から回答をいただきました。自治会・町内会への印象や参加状況、定住意向、今後重視したいテーマなど、幅広くお聞きしました。

評価と課題が併存する自治会活動

「見守りや防犯巡回が安心につながっている」「行事を通じてつながりが生まれている」といった評価がある一方で、「活動内容や会計が見えにくい」「役員の負担が重い」「若い世代が入りにくい」との声もありました。

自由記述では、「必要性は理解しているが、関わり方が分からない」という意見が多く、

無関心よりも情報不足や負担の固定化が参加の壁になっていることがうかがえます。

”関心はあるが未参加“という層の存在

「関心があり参加している層」とほぼ同程度に、「関心はあるが参加していない層」が存在しています。特に共同住宅居住者で割合が高く、時間的制約やきっかけ不足が影響していると考えられます。一方、戸建て居住者は定住意識が高く、自治会への印象も比較的良好で、居住形態による違いも見られました。参加の課題は”関心“よりも”参加への接続“にあると考えられます。

世代を超えて共有できる「防災・防犯」

今後の地域活動で重視したいテーマとして、年代を問わず「防災」が上位となり、「防犯・交通安全」も高い関心を集めました。防災・防犯は世代や居住形態を越えて共有できるテーマです。一方、子ども支援や高齢者の生きがいづくりは年代によって順位が異なり、ニーズの多様性も明らかになりました。

求められる”短期・単発参加“の仕組み

自由記述では、「役割を細分化してほしい」「短期・スポット参加ができる」とよい、「デジタル化を進めてほしい」といった提案が寄せられました。ライフスタイルの変化を背景

【共通テーマ】 防災・防犯



【参加の入口】 短期・単発参加



【参加しやすさ】 情報公開・デジタル化



【日常の関係】 「困りごと」支援

に、長期・固定的な担い手モデルが合いにくくなっています。柔軟に関われる”短期・単発参加“の仕組みづくりが求められています。

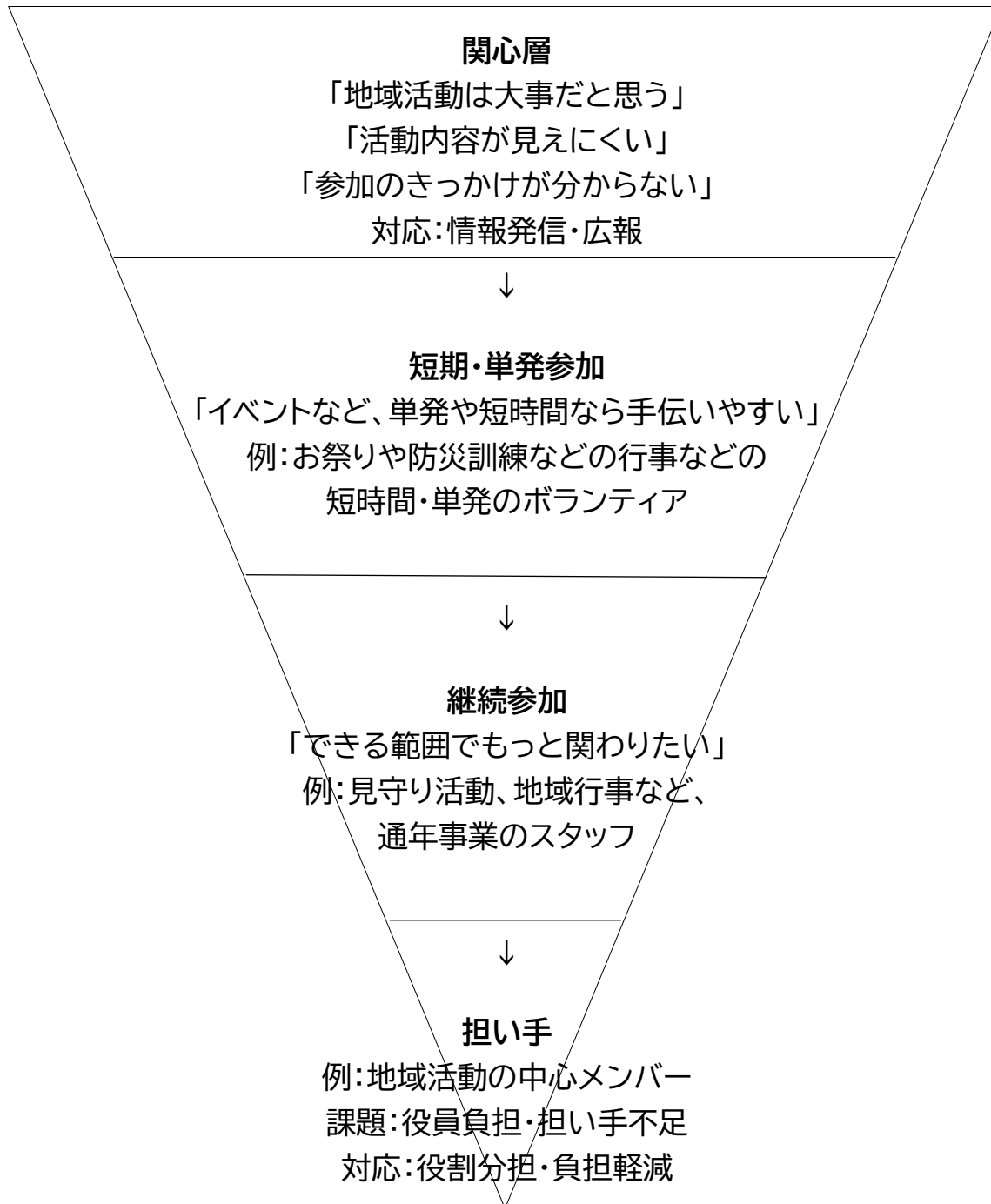
「少しなら手伝える」という可能性

「困っている人がいれば少しなら手伝える」との回答も多く、買ひ物の付き添いや軽作業など、できる範囲での協力意欲は決して低くありません。地域には、助け合いの基盤となる意識が存在しています。

(2面に続く↓)

地域参加の接続モデル — 関心から参加へ —

地域活動の課題は「無関心」ではなく「参加への接続」にある



今後に向けて

「交流を増やしてほしい」という声と、「イベントを減らしてほしい」という声が併存するなど、地域にはジレンマも見られます。今後は、防災・防犯を共通軸としながら、負担軽減や透明性の確保、参加方法の拡充を進め、「関心はあるが参加していない層」が関わる仕組みづくりが重要です。区役所では、今回の結果を今後の支援や施策検討に活かし、誰もが無理なく関わられる地域づくり（※モデル図を作成しましたのでご覧ください。）を進めてまいります。